

“生活保護費削らないで”

「反貧困ネットワークあいち」が宣伝

「反貧困ネットワークあいち」のメンバーは3日、名古屋駅前で生活保護をはじめとした社会保障制度の充実を求める宣伝を行いました。

行動は、毎週水曜日に首相官邸前で行われている「このまますすむと困っちゃう人々」の行動に呼応したものの。日本共産党のもとむら伸子参院愛知選挙区候補も参加。着ぐるみ姿の参加者らとともに「最低限の生活水準をなし崩しにしては貧困がどんどん広がってしまいます。ぜひビラを読んでください」と

呼びかけました。

樽井直樹事務局長（弁護士）は、人々が生活保護に頼らなくてもよい環境を、政治が責任を持って整えるべきだと強調しました。

ビラを受け取った生活保護受給者の男性（40）は、「腰にケガを抱えてなんとかバイトして暮らしているわけで、僕たちは甘い汁を吸っているわけじゃない。保護費は僕らにとってライフラインそのもの。偏見を持たれるのは正直つらい。もっと広く伝えてほしい」と話しました。